

## 平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

歴史を重ねた伝統を世代を超えて発展させるため、これまで受け継いできた「自主・自律・自由」の精神を、社会的責任の自覚の下で発揮するとともに、世の中の変化に対応して、既存の価値観と新規の価値観を巧みに融合して、積極的かつ創造的に社会に貢献できる人間を育てる。

そのため、次の理念に基づいて、下記のような学校づくりを推進する。

◎ 本校における教育は、人格の完成をめざし、民主的な社会の形成者として、個人の価値を尊び、責任を自覚する人間の育成を期して行う。

1. 生徒の主体性を育む伝統を引き継ぐとともに、新たな伝統を創りあげる学校
2. 志を高く進取の気概を持った、生徒一人ひとりの積極性と創造性を育む学校
3. 生徒の希望進路の実現を図り、府民の期待に応える学校

## 2 中期的目標

○ 創立 100 周年記念事業で掲げた《つなぐ、ひろがる》というテーマを新たな学校づくりにも適用し、本校の魅力を一層輝かせることをめざす。そのために、①主体的に課題に取り組む姿勢を育む教育の発展。②グローバルな視点を持った生徒の育成に向けた教育の開発。③理数教育の充実。④持続発展教育（ESD）の推進。⑤新聞の活用（NIE）、等に積極的に取り組む。また、全日制・定時制両課程間の緊密な連携で円滑な運営と教育効果の向上をめざす。

○ 「春日丘みらいプロジェクト委員会(通称：春プロ)」の主導で、生徒の学力ならびに教員の授業力向上のための組織的な取組を展開する。また、それらの諸活動を通して、経験の豊かな教員と経験の少ない教員が一体となり、既存の価値観と新規の価値観を巧みに融合して、積極的かつ創造的に社会に貢献できる人間の育成に向けた教員自身の意識改革をめざす。

## 1 生徒の主体性を育む伝統を引き継ぐとともに、新たな伝統を創りあげる。

(1) 学力の充実を基本に置き、学習と部活動・生徒会活動・学校行事を両立させようとする生徒を育成する。

ア 生徒が自学自習できるように、学ぶ意欲の喚起ならびに方法の習得を図り、併せて適切な校内環境を整備する。

イ 学習の実態やニーズを踏まえ、探究的な学習活動等を取り入れて課題を設定し解決する力や、科学的な見方、考え方、表現力等を育成するとともに、生徒の進路保障につながる教育課程の見直しと再構築に取り組む。

ウ グローバルな視野を持った生徒の育成に向けた教育を開発・実践する。

エ グローバル教育や理数教育の充実を図り、また、全定の協働による新たな教育活動を展開する。

オ 授業・HRだけでなく、行事を始めとする学校教育のあらゆる場面において、市民としての自立と公民意識の育成を図る。

カ 生徒会活動・ボランティア活動の活性化を図る。また、生徒会選挙の投票率（自主投票）85%以上を維持する。

キ 1年次の部活動加入率 95%以上の維持を図る。オリエンテーション・入学式・HR等を通じての指導を継続する。

※授業アンケートにおいて、生徒の興味・関心【学習意欲】、態度【学習行動】、知識・技能【学習成果】の向上の三つの観点から授業を評価し、継続的な向上を図る。

## 2 志を高く進取の気概を持った、生徒一人ひとりの積極性と創造性を育む。

(1) 生徒が主体的に学習に取り組むよう、環境を整備し授業の改善を図る。

(2) 「平成 27 年度学校経営推進費事業」により機器を整備して ICT 化への対応を推進するとともに、グローバル化への対応を図る。

・授業における ICT 化を推進して、アクティブ・ラーニングの視点から、生徒の能動的な学びを引き出す教育を推進する。その結果として、一人ひとりのより高い目標に向けた進路実現を図る。また、国際教育及び国際交流事業の発展を図る。

(3) TOEFL 等への対応力と英語コミュニケーション能力を育成する。

・授業の改善にとどまらず、留学生との交流・部活動・海外研修と国際交流等、多様な機会を設けて実践英語力の向上を図る。

(4) NIE については「実践推進校」の経験と成果を活かすとともに、ESD についてはユネスコスクール加盟校として、社会的視野を持って取り組む。

(5) 人を支える意識・人権尊重の意識の向上に努める。また、安全安心な学校づくりを推進し、教育相談委員会による心の支援機能を充実強化する。

(6) 読書習慣の育成と図書館の活用促進を図る。

・生徒図書委員会とも連携して新たな方策を立案し、全校的な読書指導・図書館活用に取り組む。

※生徒向け学校教育自己診断における学校満足度（「学校へ行くのが楽しい」）90%以上を維持する。

※保護者向け学校教育自己診断で、生徒の自主・自律を重んじる校風に対する支持率 90%以上の水準維持に努める。

## 3 生徒の希望進路の実現を図り、府民の期待に応える。

(1) 進路指導年間計画を充実させ、一層の進路指導・情報提供に努めるとともに、キャリア教育の視点を持った教育の充実を図る。

・生徒の第一希望の進路実現を全教職員で支援し、授業時間帯以外に自習室(質問対応を含む)が利用可能な日を 3 年間で 360 日以上提供する。

(2) 国際社会と地域社会の双方に開かれた学校として、地域の関係諸機関との連携を強化し、社会資源を有効活用する。

※普通科高校として、3 年間を通じて生徒に幅広く学ばせ、H28 年度までにセンター試験出願時における 6 教科 7 科目の割合 70%以上をめざす。

※生徒の進路選択力を育成し進路希望の実現を図り、3 学年 2 月時点の進路指導に対する肯定度 80%以上、国公立難関私立 170 名以上入学をめざす。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 27 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【学校生活全般】学校へ行くのが楽しいという生徒は 91.5%、学校は生徒の話をよく聞いてくれると思う割合は 86.7%で高率。自主自律を重んじる校風を尊重するべきと考える保護者は 96.9%に達し、学校生活全般の肯定度は高い。【授業】授業が自分の学力向上に役立っていると思う生徒は H26:70.1%⇒H27:79.4%、思わないが H26:29.0%⇒H27:22.6%となって改善の方向。保護者は子どもが授業の進度についていけていると思う割合が 75.6%で、心配を感じている様子も窺える。【進路指導】進路に関する情報の提供を肯定的に評価した生徒は 82.6%で、保護者は 90.9%が適切としたが、更なる改善をめざしたい。【生徒会・部活動】主体的に取り組んでいる生徒は 76.5%で、数値が向上するための方策の検討が必要。【情報提供】保護者について、教育相談:51.3%、健康指導:73.7%と、知らないの回答があるのは改善が必要。</p>	<p>第 1 回 : 平成 27 年度学校経営計画と「学校経営推進費事業」(ICT 化)について  ・今の生徒は伸びる力を持っているのに自分ではそう思わない。工夫が必要。  ・ICT 機器は、効果とめあてをはっきりさせ、学力向上での役割を絞っていくべき。  ・自学自習を進めるなら、読書率を高めることが大事。  ・国際交流は希望者が多く、興味関心が非常に高く良い傾向だ。</p> <p>第 2 回 : ICT 見学、生徒の現状と「骨太の英語力養成事業」  ・機器を使えばよいというものではない。効果を検証して 1 年後の変化を知りたい。  ・中学生対象説明会で 1 年生は頑張っていたようだ。自主性を高めるのに良い経験だ。</p> <p>第 3 回 : 学校教育自己診断の結果について  ・昨年度と数値はほとんど変わらず生徒が学校生活に積極的に関わっていることが分かる。  ・生徒会活動について、自分が主体的に関わっているかを設問を工夫して尋ねるとよい。</p>

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

## 府立春日丘高等学校

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>1 生徒の主体性を育む伝統を引き継ぐとともに、新たな伝統を創りあげる。</p>	<p>(1) 学力の充実を基本に置き、学習と部活動・生徒会活動・学校行事の両立ができる生徒を育成する ア 授業等の学習指導方法の更なる工夫と改善 イ 公民意識の育成と自主自律の活動支援 ウ グローバルな視点を持った生徒の育成 エ 生徒の自学自習力の育成 オ 教育課程の見直しと再構築</p>	<p>ア・生徒に対して授業へのレディネス(備え)を身に付けさせる。 ・教師力の向上(授業アンケートの活用、同僚性に基づく授業研究の充実、各種研修等の活用)を図る。 ・理数教育推進のためのサイエンスツアーの実施(年間2回以上、宿泊研修を含む)。 ・サタデーセミナー(土曜講習)の充実。 イ・授業、学校行事、部活動、地域や関係諸機関との連携を通して、生徒一人ひとりに生き方やあり方を探求させ、生徒の社会性を育む。生徒会・部活動・クラス等の代表者と校長が懇談する場を設け、教職員と生徒が協同する学びの場を迫及する。また、昨年度の東北派遣プロジェクトの成果を継承する。 ・全教職員が協力して規範意識を醸成する。 ・挨拶の励行と遅刻指導の更なる充実 ウ・「骨太の英語力養成事業」によるグローバルな視点の育成をめざした教育を追求する。 エ・100周年記念会館(多目的教室)等を有効に活用し、自学自習環境の整備を進める。 オ・興味・関心を持つ力、自ら調べ、考える力、知識・情報をもとに課題を解決する力、そして表現・発信する力を育み、進路保障につながる教育課程を研究し、再構築に取り組む。</p>	<p>ア・授業アンケート、自己診断結果の向上、学力向上に役立つ75%以上 ・教師間の授業見学や授業研究を2回以上実施 ・2回以上のサイエンスツアー実施 ・サタゼミの年間10回開講を確保 イ・学校教育自己診断で生徒会活動や行事への主体的参画80%以上 ・遅刻総数年間2200回以下を目標とする。 ウ・TOEFL講座実施とiBTチャレンジ38点以上10%の達成。 エ・記念会館を自習室として利用できる日数を年間で120日以上確保 オ・理系教育対応とグローバル対応を含む新たな教育課程の編成を行い、自己診断で満足度を75%にする。</p>	<p>ア・授業が自分の学力向上に役立っていると考えられる生徒は79.4%で昨年度より向上した。(◎) ・授業見学は随時見学で実施。(○) ・サイエンスツアーは筑波と大工大で実施。(◎) ・サタゼミは10回実施。外部模試も含めて効果的であったが実施形態について今後検討が必要。(◎) イ・学校教育自己診断で生徒会活動や行事への主体的参画76.5%で及ばず。(△) ・遅刻総数は2507回(△) ウ・TOEFL講座を20名1講座で実施。回を追うごとに活気が出てきた。機器に慣れがなく苦戦したがiBTチャレンジ38点以上2名(あと1名が37点)で10%をかるうじて達成。(○) エ・近隣施設会議室を自習室として土曜日中心に可能な限り活用。年間120日以上確保できた。(◎) オ・SSH・SGHの取組みを参考に、本校での理系教育、グローバル教育に向け研究を重ねてきた。教育課程に対する保護者の満足度は86.7%(わからないを除く)(◎)</p>
<p>2 志を高く持った、生徒一人ひとりの積極性と創造性を育む。</p>	<p>(1) グローバリゼーション・ICT化対応の推進 (2) 人権尊重、安全安心と心身の健康を支援する体制の充実、豊かな人間性の涵養 (3) 読書習慣の育成と図書館の活用促進 (4) TOEFL等への対応力と英語コミュニケーション能力の育成 (5) NIE及びESD活動の推進</p>	<p>(1)・1年次の充実した総合学習において、ICT機器を活用した学問研究・調べ学習・プレゼンテーション技能育成・異文化理解等を実施し、発展的に「志学」につなげる。 ・タブレット型PCを活用したNIE授業等を実施するとともに、ICT化に対応している教員の授業を公開、その手法の研究、普及と課題解決を全校で模索する。 ・多くの授業でプロジェクターや書画カメラを活用して、機動性と能率を高める。 (2)・教育相談委員会の活用、後援会の支援による臨床心理士と府教委事業としてのスクールカウンセラーの配置を踏まえて、教育相談に係る教師力の強化を図る。 ・学校安全担当者を明確にし、学校保健委員会や、保健部、生徒部並びに三師や警察等の外部専門家が積極的に連携できる体制を推進する。 ・音楽会や美書展の他、生徒の制作、表現活動を顕彰する方法を一層工夫する。 (3)・生徒図書委員会の選書活動や読書マラソン等の他、読書指導の充実に全校で取り組む。 (4)・府教育委員会事業等の活用を研究すると共に、TOEFL講座を充実する。 ・海外研修、国際交流の機会を提供し、留学生を受け入れる等、英会話のチャンスを拡大する。また、ネット交流にも取り組む。 (5)・NIE活動を継承、発展させるとともに、ユネスコスクールとしてESD教育に取り組む学校間のネットワークを利用した教育の活性化に取り組む。</p>	<p>(1)・ICT機器を活用したプレゼンテーションに取組む授業を実施して公開する。 ・新たなNIE授業実践を含めて、該当教員による年間のべ3回以上の研究授業公開 ・以上について自己診断で満足度75%にする。 (2)・生徒向け、及び保護者向け学校教育自己診断で相談対応の満足度、生徒90%以上 保護者85%以上 ・安全衛生、学校保健、学警連携等に関わる会議を年間3回以上開催する。 ・校内環境を整備し、校内美化について75%以上の満足度を達成。 (3)・生徒向け学校教育自己診断での読書率向上で40%以上。 (4)・海外研修、国際交流の機会を確保する。 ・留学生との交流を図る。 (5)・NIE及びESD活動の実施 ・ユネスコスクールのネットワークへの参画</p>	<p>(1)・ICT機器の工事完了が10月となって、その効果はまだ測れないが、授業アンケートや自己診断の授業についての満足度は向上した。(○) ・新たなNIE授業実践を含めて、該当教員による研究授業公開や生徒の発表等があり、新聞協会優秀賞の生徒も出た。(◎) ・教育課程についての保護者の肯定的評価は86.7%(わからないを除く)と高い。(◎) (2)・学校教育自己診断で相談対応の満足度、生徒86.7%、保護者91.6%(わからないを除く)との肯定評価を得た(○) ・安全衛生、学校保健等に関わる会議を2回開催して外部からの意見を学校運営に反映。学校医・産業医との連携はかなり密になった。(◎) ・校内環境の整備に努め、校内美化について保護者78.7%、生徒74.0%が評価。下足であるために清掃の徹底と他の環境整備も検討が必要。(○) (3)・読書マラソンの実施等に取り組んでいるが、読書率は、「ほとんど読まない」が62.1%と課題が多く今後の対策が必要。(△) (4)・サウスウェスト高校との交流を実施。昨年度末派遣中止の代替のケアンズは好評。(◎) (5)・NIEで生徒が新聞協会優秀賞表彰を受ける。(◎) ・アジア高校生交流(韓国)に派遣。(○)</p>
<p>3 生徒の希望進路の実現を図り、府民の期待に応える</p>	<p>(1) 進路指導・情報提供、及びキャリア教育の充実 (2) ア 地域の関係諸機関との連携強化、社会資源の有効活用 イ より進化した高大連携の推進</p>	<p>(1)・進路部と学年が連携して、進路選択、自己決定ができるよう情報提供と相談対応を一層充実させる。 ・卒業生による「藤蔭講座」の継承、発展を図る。 (2)ア・地元中学との連携の一環として、茨木市内の中学校と高校との交流サッカー大会を実施するほか、部活動等を通じて地域連携・交流・貢献の活動を発展させる。 ・地元NPOや企業との連携をさらに深める。「カス(春)ピカ」を含む茨木市内清掃活動・家庭科での車椅子実習や保育実習等に引き続き取り組む。 ・地域のロータリークラブと連携し、海外からの長期留学生を受け入れる。 ・保護者への情報提供効果の検証法を検討 イ・NIESDプロジェクト等を踏まえて、立命館大学との高大連携の推進等、市域の教育力向上に貢献する。</p>	<p>(1)・生徒向け学校教育自己診断で進路に係る情報提供・相談対応の満足度維持、向上(H26年度は83・80%) ・「藤蔭講座」実施後アンケートにおける満足度80%以上 (2)ア・サッカー大会やおもしろ実験教室などの対中学、地域向け活動実施 ・清掃活動(カスピカ)の継承、発展及び車椅子、保育実習の実施 ・上記について実施後アンケートを実施して検証。 ・長期留学生の受け入れを継続 イ・市域15校と立命館大学との高大連携推進協議会による事業の展開</p>	<p>(1)・学校教育自己診断で進路に係る情報提供82.6%(保護者90.9%)、相談対応79.6%が肯定的評価。進路日より発行等きめ細かく対応。(◎) ・藤蔭講座は企画を変えて実施。感想文では、生徒の職業観と進路意識の向上が見られた。(◎) (2)ア・茨木市内高校と中学校等でサッカー大会を実施。中学生の理科実験体験(チャレンジ理科教室)は88名の参加があって好評だった。(◎) ・清掃活動(カスピカ)、NPO「ナルク」と連携した車椅子や保育実習の実施、茨木市内のクリーン大作戦等実施。(◎) ・アメリカからのロータリークラブを通じた留学生は成果を上げて帰国。茨木市国際交流の集いにも参加。(○) イ・立命館大学と市内高校との連携について本格的実施。留学生との英会話教室も実施。(○)</p>